



令和5年度 すさき野外博物館

しんじょう

2023. 9. 29
すさき・かわう
そクラブ会報
—No.33—
発行：すさき・
かわうそクラ
ブ事務局

ホタルとカエルのタベ

6月3日（土）

新荘の坂ノ川地区で、ホタルとカエルの観察を行いました。始めに新荘公民館にて、講師の谷地森さんよりホタルとカエルの生態について説明をしていただきました。

・ホタルを呼ぶための環境

- ① 暗いこと ② 木陰があること
- ③ 卵を産むためのコケが生えていること
- ④ 幼虫のエサとなるカワニナがいること
- ⑤ サナギになるための泥があること

・ホタルは場所によって生息する種類が違い、種類によって光り方や色が違う

・カエルは卵を産む時、オスとメスが出会う時のみ鳴く
この辺りに生息するカエルの写真とその鳴き声の紹介

説明が終わると坂の川へ移動し、カエルの鳴き声を聞きながら暗くなるのを待ちました。聞こえてきたのはアマガエル、ヌマガエル、カシカガエルの3種類です。

暗くなってくるとホタルも姿を現し始め、ハイケボタル、ゲンジボタル、ヒメボタルの3種類を確認できました。幼虫の時に光るマドボタルも発見できました。ホタルが光るのをみつけるたびに歓声が上がったり、捕まえて手の上で観察したり、参加者は楽しみながら観察をしていました。坂の川でのホタルの数は横ばいの状態とのことです。今後も観察を続けながら、ホタルが住む環境を守っていきましょう。



フィールドサインを探そう！

8月26日（土）

桑田山にて、山道を歩き動物の痕跡（フィールドサイン）を探しました。

フィールドサインは、その場所にどんな動物がいるのかを把握するための手がかりとなり、主には足跡やフン、食痕（食べたあと）があります。今回の調査では、イノシシが食べ物を探すため地面を掘った跡や、ノウサギの食痕、獣道などがみつけられました。



フィールドサインは一目ではわかりにくいですが、慣れると次々とみつけることができるようになります。自ら発見する楽しみもあり、参加者も山道を歩きながら足元に集中して探す様子が見られました。また、目に入った痕跡らしきものや動物の生息について、講師の葦田さんに質問をしながら探索を進めていました。

今回は2週間ほど前より桑田山に自動撮影カメラを仕掛けており、実際に撮影された映像を確認しました。

ノウサギ・ハクビシン・タヌキ・テン・アナグマ・イノシシ・シカなど多くの動物の姿が撮影されており、桑田山のどこにどのような動物が生息しているのか確認することができました。

参加者は食い入るようになりカメラ映像を確認し、イノシシやシカなど体長の大きな動物が映った際には歓声も上がっていました。



←カメラ

カメラ映像では、普段は見ることのできない動物の姿や活動している様子を見ることができました。カメラ映像の取れ高も良く、須崎に住む動物のことを知る良い機会となりました。楽しく学べる回となりました。